

# あさのこうさてん

—地域の交通指導の方々に感謝の心を—

- 1 学年 第2学年 [前期]  
 2 主題名 じぶんたちのために [2-(4)]  
 3 ねらい 主人公の気持ちを考えることを通して、日ごろ世話になっている人々の存在に気づき、自分たちのために働いてくださる人々の善意に感謝する心情を育てる。  
 4 資料名 「あさのこうさてん」  
 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 通学する時の様子について話し合う。 ○ ここはどこでしょう。 ○ 学校の行き帰りにどんな人に会いますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日通る交差点 ・ 中道</li> <li>友達のか～さん ～君</li> <li>近所のおばさん, 校長先生</li> </ul>	○ クイズ形式で通学路を2～3枚掲示し, 興味・関心をもたせる。
展 開	2 資料「あさのこうさてん」を聞いて話し合う。 ○ 目の前をすごいスピードでトラックが通り過ぎていった時, ゆうやはどんな気持ちだったでしょう。  ○ 校長先生やおばさんは, 毎朝どんな気持ちで交差点に立っているのでしょうか。  ◎ 次の日, ゆうやは, 校長先生やおばさんにあいさつした後, 何と言ったでしょう。  3 自分の生活を振り返って話し合う。 ○ あなたは, だれに, どんな「ありがとう。」を言いたいですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>こわかった。</li> <li>青だったから渡ったのに。</li> <li>校長先生がいなかったらひかれていた。</li> <li>もう二度と交通事故がおきないように。</li> <li>みんなが, 無事に学校に行けますように。</li> <li>みんなの元気な姿を見たい。</li> <li>おはようございます。昨日はありがとう。よく見て渡ります。</li> <li>ぼくたちが安全に学校へ行けるよう見守ってくれてありがとう。</li> <li>いつも心配してくれてありがとう。</li> <li>校長先生や地域の人に, 「毎朝見守ってくださってありがとうございます。」</li> <li>おかあさんに, 「いつもおいしいごはんをありがとうございます。」</li> <li>友だちに, 「困った時, 助けてくれてありがとう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料に出てくる場所の写真を提示しながら読み語り, 場面の様子や主人公のおかれた状況をつかませる。</li> <li>資料を引用し, おかあさんの話を聞いたゆうやになつたつもりで考えさせる。</li> <li>児童の発表後, ゲストティーチャーに交通指導の際の心情を話していただく。</li> <li>ゲストティーチャーに向かって話をする役割演技を通して, 感謝の気持ちをもつ主人公の気持ちに共感させる。</li> <li>ゆうやのような「ありがとう。」を誰に言いたいかを考えさせて資料文と自分の生活をつなげることで, 自分の生活を振り返らせる。</li> </ul>
終 末	4 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>たくさんの人にお世話になっている。</li> <li>「ありがとうカード」を書いてわたそう。</li> </ul>	○ 「ありがとうカード」を書く意欲をもたせ, 次の活動につなげていく。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

私たちの生活は、様々な人々との関わり合いの中で成り立っている。低学年の児童は、身の回りの人、例えば、お母さん、先生、近所の人などにお世話になっていることは理解できる。しかし、それを当たり前のように感じてしまい、感謝の気持ちをもてなかつたり、表せなかつたりすることがある。

主人公は、自分たちの安全を気遣う地域の方や先生方の行為に気付き、感謝の気持ちをもつようになる。この主人公の心情に共感させ自分たちの生活を振り返らせることを通して、日ごろお世話になっている身の回りの人々の心遣いや行為に気付かせ、感謝の気持ちを表そうとする態度を育てたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

#### ア 地域で展開されている交通安全指導との関連

学級活動や交通安全教室、朝会等での交通安全指導はもちろんのこと、登下校時の安全指導について、家庭や地域と共に取り組んでいる学校は多い。このような交通安全指導を道徳の時間の内容と関連させることにより、児童の道徳的価値の自覚をより深めることができる。また、資料文に登場する人物名を、実際に協力を受けている地域の方の名前にする等の工夫が考えられる。また、1年生が入学してくる年度当初や夏休み等の長期休業前後の実施もよい。

#### イ 通学路や校区内の危険箇所との関連

資料文での国道185号線の交差点は、交通量が多く危険箇所である。それぞれの校区内での危険箇所の地名や写真等を資料に使用することにより、実生活とのつながりをもたせ、より自分の生活を振り返ることができるようにしたい。

#### ウ 事前・事後の取組

生活科「町をたんけんしよう」「おれの気持ちをとどけよう」の学習時期と合わせると、地域の方が交通安全指導に立たれる場所を町の発見地図に書き入れたり、お礼の手紙を書いて届けたりする等の学習と結びつけることができる。

事後に作成する「ありがとうカード」を手渡し相手の方の喜ぶ姿を見ることは、その後も、感謝の気持ちを表していきたいという意欲や態度を育てることにつながる。

### (3) 指導過程の工夫

#### ア 資料提示の工夫

場面の様子や登場人物の心情をつかみやすくするため、実際に交通指導が行われている場面や危険箇所の写真、キーワードになる言葉の提示をすとよい。

また、時間の流れに沿った分割提示により、登場人物の心情をより深く考えさせることができる。

#### イ ゲストティーチャーの工夫

交差点に立つ人の気持ちを考えさせた後、交通指導に立っている教職員や地域の方をゲストティーチャーとして迎え、実際の気持ちを話してもらったり、中心発問を考える際、ゲストティーチャーに向かって話をする役割演技を取り入れたりするとより登場人物に共感させることができる。

#### ウ 事後学習の工夫

ねらいにせまるためには、展開後段が重要となる。時間を確保し、身の回りの誰にどんな「ありがとう」を伝えたいか話し合う。終末では、『ありがとう』の気持ちを心の中で思っているだけでは相手には伝わらない。『ありがとうカード』に書いて渡そう。」と、実際にカードを提示し次の活動へつなげていくことができる。

(三津口小学校 上口さゆみ)